

武門故實百箇條細注

五

和書門			
類	號	函	架
二七四二七	九	一	五
冊	架	冊	冊

內閣文庫			
類	號	冊	架
二七四二七	九	一	五
冊	架	冊	冊

內閣文庫	
番號	和 27427
冊數	5 ( 5 )
函號	153 269



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





明治十二年購求

武門院...

一 本六頁...

腹巻...

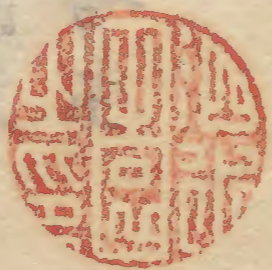
...

...



武門故實百箇條細注卷之五

一 大六具証文



甲申二大六具小六具ト云下有六六具ト云時曾鑑

腰卷腋三采幣佩三且是ヲ大六具ト云盛長日記

向後如此定ヘキヨ見ヘタリ然レハ頼朝御時代リ

ノ云ト見ヘタリ

一 小六具証文

大六具ヲ著スル時ハ小六具ハ云ニ不及是ニ添テ

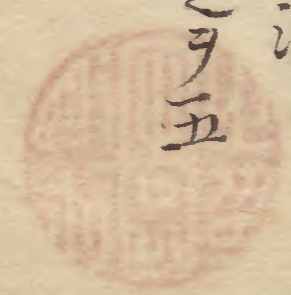


着スルモノハ小具大着用ト云時ハ大具ハ  
不及俗ニ云小具是是小具只トハヘニリ烏帽  
子喉輪籠手腰當ホア太刀是也出陣行列陣  
押トトノ時大具不及多クハ小具ニ直ニ垂式ハ羽  
折ヲ着ニテ事ヲ湊スコレヲ小具下稱スル  
是モ鎌倉殿時代ヨリノ事也

一 采幣五種ノ義

柄木ハ  
將軍木  
ヲ用ヒタ  
リ色ニ  
差カツ  
イロト云

一 紫柄ニ柄ノ寸方ニ腕拔ノ仕様四ニ雨濡レ  
テ損セサル様五ニ采幣ヲ許サルノ義是ヲ五



種ト云ニ其紫柄ハ能クサハケテイカホト振リテ  
モ落サル様ニ紫ハヨリ外口傳ナリ柄ノ寸法ハ  
寸ヲ法トスレ氏自今ノ曲池ヨリ腕首ノモト  
迄是ヲ柄ノ寸方ト用ル故盛上ノ腕拔  
華不用柔ナル糸ノ組モノ可然腕首ノ下縁前  
ノ大サニツタケ有ハ至極ノ腕拔ノ寸ト成ナリ  
雨ニ不濡様ハサニ説有キ古法甚々ノ沖ヲ  
塗ヨリ外ハナシ采幣ヲ許サル人士大將以上  
ナリ是輕大將ニ是ヲ不許譬上歩行武者也



氏士トシタル者ヲ支配スル祖頌ハ采幣ヲ許  
サレニ於テ異儀ナシ夫ヨリ以下ノ輩ハ采幣  
遠慮有ヘシ是モ古式ヨリ様ニノ説アリトモ  
何ノ何某ニ采幣御免ト有ル士大將ニナリ  
印ナリ采幣古法ノ札方ト未代ノ札方ト  
違有古法ノクク方ノ首ニ柄ノ先ハ麿ノ様ニ  
クク付ケタリ後些ノ采幣ハ札方ト是ヲ付  
古實ニノラス変る永禄天文以後ノ義ト見ヘ  
尤古法ノ形用ヒマヘモ宜キ様ニ見ヘタリ

- 一 軍中ニテ口傳
- 一 匡房義家ニ示ス口傳是也唯輕キ事ノ様ナシトモ  
兵学ニ於テハ至テ重キ也学負不可学勝ノ  
一 騎射故實
- 一 古来ノ騎馬ヲ横ニカニテ射テ後些隈ニ望  
ニ構テ射ントスル故騎射ニ傳有杯ト云杯ニテ  
一 弓馬ノ傳



一 是ハ名目輕キ様ナレヒ傳授ノ一ツコ弓馬ノ  
家ニ生シ杯ト云フ誤テ弓ト馬ト兩様ノ事ノ  
採意得ル輩有ラ馬ト云ハ弓ト馬トノ義ニハ  
非ス弓モ弓馬モ弓ナリ今義解ノ内軍防令ニ  
弓馬ノ二字有テ義解ニ曰弓ハ步射ヲ云馬ハ騎  
射ヲ云共ニ弓藝ト云々弓馬ノ家ト云モ弓取ト  
云モ同様ニテ馬ニカハルト云ハ非ス  
一 矢入 敵陣へ始テ射入ル矢流美我ニヨリ大ニ貴おリ其

一 矢ニ勸請シテ射入ル事有神代ノ卷ノ故實  
ニ不叶矢入ッ矢ニハ高彦靈ヲ勸請シテ射  
入ル也心ニ勸請シテ射ルカニテ矢ニ書ニテハ  
ナシ  
一 還ノ矢 敵ヨリ来ル矢ヲ取テ敵ノ方ヘ射カハス是ヲ  
還リ矢ト云是モ神代ノ故實ニヨリ高彦靈  
ノ矢ト思フテ放ツ古法ナリ  
一 軍拜



一軍中ノ神拜也血ヲ忌ス死ヲ嫌ス前ニモ云  
通り誓言ハ軍中ハ其大將ノ信仰セラル社ヨリ  
祈禱ノ礼ナト持参ス時ハ昨今ニ敵ノ首ヲモ  
取タル勇剛ノ功有武士ニ請取ラズ事ナリ  
一軍中ハ刀ニ血ヲ以テ日出度事トス故ニ  
穢ヲ不忘治世ニ可成タケ是ヲ忌ム是敬ノ  
至リ也軍中ニテハ不忘知レヌ是神ハ忘不忘  
ノ心ナレ人ヨリノ禮ノミ

一界串

敵陣ヘシテロノ者ヲ入レ敵味方ノ界ノ所ヘ  
竹ノ串ヲ打込ラケ且ハ大己貴ノ神ト書テ敵  
ノ方ヘ向ケテ打也古來敵ヲ亡ルノ<sup>ミテ</sup>呪事ニ  
其能ノ有ナキハ不得其意事ナレトモ故實ニ  
界串トスルハ是也

一先駈

將軍家杯ノ大規ノ行列先駈扈從ノ二ツ有  
東鑑ナトニモ多ク見ヘタリ今貴人ノ行列ニ  
先駈ト云モノ有是先駈ナルハ三ノ伊勢氏ノ



説ナリ然レモソノ後ハ先駈ト云駈ノ字ハカ  
リ馬ニ从フ字故モフケタル後ト見ヘタレモ尚時  
公家ノ行列ニ先駈誰ニト書ニ何レモ騎馬  
ナラス只主人ノ先ハ三束帶ノ衣冠畧ニテ  
ハ狩衣ナトニテ先ヘ立行ヲ先駈ト称ス馬  
ニテモ歩行ニテモ通名也駈ハ先ヲ拂ソノ心  
必騎馬ニ限リタル事ニ非ズ文家ノ列輕字  
并士ノ次ニ立テ先供ヲスルハ何レモ先駈ナレ  
ヘニ行列ナトヲハル時ノ為ニ此ケ條ヲ儲タル也

一長短

當流義ノ傳授ノ一ツ箕壁ト云子有箕ハ長  
ク一フスクニツイテクル形壁ハヒラク敵ヲ卷  
テ取ル形都テ直ニ長キト横ニ短キトナレ其  
大鼓一ツ鳴ス時ハ忽變ニテ箕カ壁ニナリ壁  
カ箕ニナル様ニ備ヲナシテ我ノ箕壁名ハ  
異ナレモ長ト短トノ別ニテ替ルヲナシ故ニ目  
ヲ午ノ本ニシテ一切ノ事ヲ取ルヲ長短ノ傳ト  
称ス當流箕壁ノ卷ニクワシ



一 陰扇陽扇

裏表共ニ銀紙ニテ一切銀具ニ飾リタルヲ陰扇ト云模様ハ心ニヨルヘシ都テ金栴ニテスルヲ陽扇ト云但シ金扇ハ亂世ニ用ヒ銀扇ハ治世ニ用ユ陰ハ靜ニ陽ハ動リ故也

一 上古ノ車カリ

車菟ハ古名車輪執アト号ス巨房卿義家朝臣ニ傳ル書ニモ弱ヲ見セテ強ヲ後肖ニシテ討テ車輪執アト云ト云近クハ川中嶋合戦謙信

ノ備ヲ車菟也ト信玄被申シ是也孫子ニ常山ノ蛇執アリ有頭ヲ打テ尾至テ是ヲ突キ尾ヲ打テ頭カヘツテ喰ム中ヲ打テハ首尾至テ是ヲ突キ是ヲ喰然レハ攻口ナキ備ナリ是山ヲ纏フタル蛇執カノタトヘテハ車輪執カノ起原ナリハシ神武天皇一旦御陣ヲ引玉ヒ熊野ヨリ敵ノ後背ヘ廻リ玉フモ至然ト車菟ノ理アリ義経大手ニハ範頼ヲ置キ其身ハ三草山ヲ越ヘ一ノ谷ヘ落ス是モ車菟也都テ兩方ヨリ挾



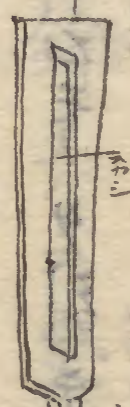
テ後背ヨリ不意ヲ付テ車菟ノ惣名ト心得  
ヘシ今ノ人様ニカタラ極テ是ハ車菟ナリト云類  
ニ非ス

一手裏劍  
ト古ヨリ有ク祀文手鉾又ハ手突ナト云モノハ手  
裏劍トハ別ナリ打根ト云モノ自是ハ手裏劍  
大ナルモノニシテ銚ノ穂ノ如ク製シ一尺寸ノ  
柄ヲ付ケテ長キ紐ヲ下トモ遠クハ投打ツ矢  
ノ如ク羽ノ付キタルモアリ不付モ有古田流ノ

射藝ニ近代是ヲモ副傳ノ打根ハ元弘ノ頃  
ヨリ後ノ物ナリ慈日ニ打箭根ハ計ナレモノ  
元弘建武以後ノ武器ニテ古ニ不聞ト云々手裏  
劍ハ甚古ニテ裏小劍ヲ隱ニテ遠キヲ打ト云  
丁秀衛家ノ記ト云モノヲ引テ盛長日記ニ  
載タリ手裏劍藏髪ノ術腰間ノ術ト云テ二  
術有藏髪ハ古流ニシテ遠間打難ニ腰間近  
代ノ流ニシテ遠間ヲ打然レ氏五六間ニ限ル藏  
髪ハ二三間ニ限ル唐ニモヒ首ト云物有始皇



ヲ打損ニケルモ此七首也手裏劔ノ元ハ此也  
 首ヨリ出タルナルヘシ臧髮ハ髮ノ内ニ隠ス  
 長廿曲尺ニ寸五分腰間ハ袂ニ入ル腰ニ帶フ長廿  
 四寸五分制名ニ方別ニ傳  
 一此而一切腹故實入  
 一鞍馬鉞



ホサキニ刃鉄ヲ多ク不用蓋也  
 鐵分ヲ用ユナリ先ニ鉄ニテモ  
 ヨシ刃鉄ヲ入レテキタハ折ルニ

クラーハ關山祇ノ社也クラーヤニ轉ニテクラーニト成  
 後毘沙門ヲ安置ニテ神体ハムナシクナリタリ  
 田村將軍ヲ直ニ毘沙門ノ化身也ト云下坂上

ノ系圖ニ見ヘタリ田村丸知少ノ時松尾丸ト号ス  
 故ニ江州田村川松尾川トナラヒタリ此所ニテモ  
 田村ノ本地毘沙門ト号ス浮屠ノ説ニテ取難  
 キ下ナレ氏坂上カニ久ニク云傳ル説ナルハ今更  
 改難ニ此鞍馬鉞ト云事都テ異國ノ制少鉞  
 ノ物名ナリ田村丸ハ漢ノ高祖ノ後亂ニテ其  
 家ニ用ル所ノ武器悉ク漢制ナレ故和制衣ニ  
 非ル鉞ヲ鞍馬鉞ト号ス諸書ニクラーニホコト有  
 ルハ是ナリト知ルヘシ鞍馬鉞ト號毘沙門鉞



ト云ハニカ如シ

一 箴ノ事

小笠原流ニハ矢配リ小格子ヲ用ルナリ十六  
或ハ廿四サスナリ當流ニハ箴形ヲ用ルナリ  
堂上ノ胡籛ナトモ矢配ニ箴形ノ様ニ板ヲ入  
也矢々バ子トテ一枚ノ板ヲ出形ニシ錦ニテ張  
也然レハ箴形可用由万松院殿ノ説見一  
一 矢立硯  
懷中硯ヲ矢立硯ト云フモ古キ事也引田妙源

具足ノ引合ヨリ矢立硯取出ニ願書ヲカキ

タルヨシ太平記ニ云ハセリ矢立ノ硯ト云名ハ

元箴ノ筥ノ後ニ硯ヲ付クルナリ是ヲ矢

立硯ト云ヨリ懷中スルヲモ矢立ト云ニ轉シ

タルモノナリ

一 中指上指ノ辨

逸見流ノ説ニ中差トハ心ト云文字ヲ書テ心

差ト云心ハ我カ必此矢ヲモテ君ノ為向フ

所ノ大将ヲ射取ントコトヲロサヌト云心ナリト云



此矢ニ、姓名ヲシルスト云上ノ差ハ、鎬矢ニテ、出陣ノ時神社ヲスグレハ、奉助スト云○小笠原流ノ説ニハ中差ハ休ノ矢トテ身寄ニサス此矢ニハ姓名ヲシルシテ討死スレハ死後迄モ此矢ヲ残スナリ此休ノ矢ヲ頭ニ取流テ大将ノ實檢ニ備ルトナリ梶原カ籠ノ梅ハアツリ傷テ射ノ矢迄射拂ヒシカハ其射ノ矢ノ代リニ梅ヲ折テサシタルトナリ是射ノ矢ヲ残スヘキ故實ニ引テ云也○又一説ニ右ノ射ノ矢ヲ打根ト云テ鈿ノ

如クニシテ木ヲ以テ柄ヲ付身ヨリニサスト也○又一説ニ射ノ矢ニハ矢母衣ヲカケテ矢ヲ射拂テ一本残シ矢母衣ヲ持シムルト也是ヲ射ノ矢ト云夫故此矢ニ、箬ヲ付ズト云矢母衣ハ夫数ヲ隠ス爲也ト云右ノ如ク諸説或ハ禮家ノ説也ニ區ニニシテ一變セヨ事ナリ○今按スレ梶原カ籠ノ梅ハ風流也古歌ノ心ヲモテ箬ニ梅ヲサシタルナリ然レハ射ノ矢ノ代リニ梅ヲ折テ箬ニサシタルト云ハ後人ノ誤也

土



盛衰記生田森梶原二度蒐ノ所○詩歌管絃ハ公家  
仙洞ノモテアリヒモム東夷イロテカ敷嶋難波津ノ  
言葉ヲ可存ナレ氏梶原ハ心ノ剛モ人ニ勝レ好キタル  
道ニ優ナリケリ咲乱レタル梅枝ヲ簾ニソエテソサ  
ミタリケル蒐レハ散ケレ氏白コハ袖ニソ残りケル吹風を何  
いといふ梅の蕊を付る香は尚さうりたりト云古キ言葉ニ  
テモ思ヒ出ケレハ平家ノ公達ハ花簾トテ優ナリヤサシト  
ロニゾ感シモヒケルト云

○中指トテ見寄ニサス此矢ハコ、ロサス敵ヲ必射取  
ラント思フ矢也ト云ハキコヘス簾ノ矢何レニテ  
モ敵ヲ討取ノ備ニシタル矢ナレト別テ此一筋

ヲ頼テ自身寄ニサシ志ス敵ヲ射ル矢ト云レル  
不審也古軍書ニモ中指取テ打違ナト有モ  
都テ簾ニサシタル矢ト聞ルナリ然レハ中指ト  
テ別ニ一筋ノ矢ヲ立置事不審也若後世  
ハ此士吾心ニニカセテ傳ヘタルカ故實ヲ不  
知説也○上指ヲ神社へ奉納シ願成就ニ  
後馬ヲ奉ル事尤古代ヨリ有リナリ古ハ軍  
ナラ子氏神社馬或ハ鷲ノ羽鷹ノ羽鷲ノ羽  
ナト布施物ニ致ス事吾妻鑑ニ見ヘタリ神社



へ馬ヲ引リハ人ヲ以テ有事也○休ノ矢トテ鏑  
ノ如ク打テ柄ヲ木ニテ作り是ヲ身寄ニサス  
ト云フ是ハ上代ナキ事ナルヲ後人中指ト云  
フ畧シテ右ノ如ク調スルナラン○矢ホロノ為矢  
一筋ヲノコスト云事是モは矢フヘキ説也矢ホロハ  
雨露塵埃ヲ防ニ為ナリ然レハ我ニ臨ニテハ  
矢ホロハカケサルナリ夫ヲ矢ホロタモナリ  
為矢一スシテ残シテ休ノ矢ト云説是又故實ニ  
疎キ説也△按ルニ中指ト云ハ都テ箠ノ中ニ矢ヲ

實地ノ事ナリ  
此ノ名目ニシテ此中指ニ對シテ上指トテ一筋  
ニ筋ヲ鏑矢ニシテ此ルカ古風也

藤下家藏

武門故實百箇條細注卷五終

門ノ實信ノ事ナリ  
此ノ名目ニシテ此中指ニ對シテ上指トテ一筋  
ニ筋ヲ鏑矢ニシテ此ルカ古風也



右五卷者多田穉齋先生  
所著也金科玉條可謂武  
門之寶訓也故傳寫焉以  
藏于家笈云

寬政九年<sup>右</sup>丁巳歲六月十五日寫

